

土浦女性団体だより

つどい

第23号

平成29年3月発行

編集・発行：土浦市女性団体連絡協議会

土浦市大和町9-1 土浦市役所本庁舎2階 土浦市男女共同参画センター内 TEL029-827-1107

今こそ男女共同参画社会の実現を

宣言を生かすのは私達市民です

平成28年4月から新会長に今高博子氏を迎えてのスタートとなりました。



抱負を述べる
今高博子会長

土浦女性団体は平成四年に設立され、会員の皆様の力の結集で誰もがいきいきと暮らせる地域活動を展開、内外共に実績と存在感を高めてきました。

この活動でかち取った大きなものは土浦市が発した「男女共同参画都市宣言」です。これは宣言文にある「誰もが自らの意思でその人らしく幸せに暮らせる」生活の実現のため、私たち市民・企業も努力し、行政がその実現を約束したものです。

土女連は行事のある度、宣言文を唱和しています。これは条例や、宣言文をただの文言で終わらせるのではなく、男女共同

参画を推進するために私たちが関わっていることを確認し、これからも着実に歩を進めることを誓うことだと思います。

しかし、今、女性団体を取り巻く課題や状況は一段と厳しさを増しています。会員の高齢化、参加者が少ないなど、会活動の悩みをどの団体も抱えていることでしょう。

そこで今年度は「人生まだまだこれから！」と題してストレス解消と、脳の活性化のためのリハビリ体操を行い、積極的に社会に出ていくことの大切さを学びました。前向き思考で楽しく、互いに交流・連携しながら、土浦のまちづくりの一翼を担っていきたくと考えています。

今、国は就業する女性たちを経済成長の大きな柱として光を当てています。一方無償のボランティアで長年、活動をしている私たち女性団体も重要な社会資本です。「真の輝く女性」として地域の安全・安心の暮らしを支えていきましよう。

広報部会	研修部会	総務部会
土女連の活動記録誌「つどい」を編集・発行しています	その時々々の社会問題に焦点を当て、研修会を企画し会員に参加を呼びかけています	市政やまちづくりへの関心を深めるために市議会傍聴などを行っています
<ul style="list-style-type: none"> ○ 土浦市地域婦人団体連絡協議会 ○ うららフレンドハウス ○ 六好会 	<ul style="list-style-type: none"> ○ JA土浦女性部 ○ 土浦市食生活改善推進委員連絡協議会 ○ 土浦暮らしの会 ○ TMオルカ ○ 和の会 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新治婦人会 ○ 土浦母の会 ○ 土浦母子寡婦福祉連絡協議会 ○ 土浦市更生保護女性会 ○ 土浦商工会議所女性会

★土女連は新会長とそれを支える副会長2名（服部喜代子さん、篠捷子さん）を中心に土女連に所属する13団体を3部会に分けて活動しています。

男女共同参画センターフェスティバル

男女共同参画社会の実現を！

～ひとりひとりが自分らしく生きる社会へ～

平成 28 年 9 月 17 日 (土)

講演とエクササイズ

「人生、まだまだ
これから！」
ストレスと運動のお話」

講師 内藤 幾愛氏
ないとう いくえ

訪問リハビリ理学療法士



プロフィール

- ・新潟県生まれ
- ・ヒューマン福祉科学で博士号取得
- ・訪問リハビリテーション理学療法士として活躍中

講演とエクササイズに参加して

看護師 山下 ひとみ

今回のこのフェスティバルを知り参加しました。職種は違いますが、同じ職場で働く内藤さんの講演はとても興味深かったです。日常の中でも行っている家事やお庭の手入れ、散歩などでの活動は、広い意味で運動なのだと思いました。ストレスの発散や予防には、まさにその活動も大切な役目でもあることを知りました。

私は現在、訪問看護師として患者様のお宅に行きますが、今回のこのお話を生かし、一緒にできるエクササイズや、その方の役割を見つけて、ケアに取り入れていきたいと思っています。

鳥山在住 赤上 洋

この八月に古希を迎えて、ひとつ健康に自信が持てずいた私は、演題に魅かれて迷わずに参加申し込みをしました。

当日の会場は、女性の熱気であふれていました。何と男性参加者は私一人。土浦市においては、もう男女共同参画社会は実



手づくりの棒を使って体操をする皆さん



現している実感させられました。さて、内藤さんの講演では「運動が大事ではなく、大切なのは生活」という言葉が印象に残りました。運動をあまり大げさに考えずに、日常生活の中の家事も立派な運動であることを肝に銘じ、体を動かしたいと思えます。

講演

「女性が輝く社会へ」

講師

あおや ようじ
青谷 洋治氏
(株)坂東太郎
(代表取締役会長)



プロフィール

昭和26年 結城郡八千代町生まれ
昭和50年 そば・うどん店創立
昭和61年 会社を法人化、ファミリーストランにする
平成2年 坂東太郎に社名変更



熱心に耳を傾ける皆さん

講演を聴いて

桜町在住 岩瀬 雅代

「お天道さまが見ているよ。人が見ていないところだからこそ頑張るんだよ」青谷さんはお母さんから、繰り返しこう言われて育ってきたそうです。

名誉・地位・お金を追求するよりも多くの人の役に立つて喜ばれることが真の幸せにつながる。24才で起業した勇氣、11回も銀行に通い融資を依頼した意思と行動力。社員の制服や髪の整え方は、全日空のCAをまねしてみたという工夫も素敵です。最もつらい時に救ってくれた「働く人を幸せに」というお母様の言葉。青谷さんから、人としてたくさんの教えをいただきました。



従業員の業務紹介やメッセージの紹介を映像で

NPOまちづくり活性化つちうら

小林まゆみ

冒頭で青谷社長の「皆さん、ご主人は好きですか」の問いに、恥じらいの年代の私は「好きです」と答えられませんでした。

母なる大地坂東で開業されたレストランは、単なる外食産業ではなく、お客様も従業員もすべての人の幸せを創造するという経営理念。その為には、まず自分が幸せになること。幸せになりたいのではなく「絶対に幸せになる」と言葉に出す実践をされています。言葉に出すことの大切さを改めて感じ、坂東太郎(利根川)の悠々とした流れのようにいつの日も大らかな心と笑顔で輝き続けたい。

センターフェスティバルを

終えて

午前・午後とも定員を大きく上回る参加者があった。

内藤さんには、健康寿命を伸ばす話や手軽にできる運動をたくさん教えていただいた。体操で使った棒を、今も家庭で活用し運動に励んでいる人もいるのではないかと思う。

青谷さんの「もう年だからという人がいるが、自分が認めてしまったら賞味期限がきれてしまう」という言葉が印象に残った。いくつになっても夢をもち生活していききたいものだと思われた人が多かったのではないかと思う。

(参加者 午前50名)
(参加者 午後90名)



総務部会活動報告

部会長 田村 尚子

H28年度の総務部会は、5団体10名でスタートしました。1回目の部会で、今年度の行事予定を決定しました。

①例年通り6回の市議会傍聴受付。

②「土浦を創ろう・語ろう！」と題し市議会議員を囲み、お話をうかがいました。これは新しい企画という事で、部員間でも重すぎるとはとの懸念もありましたが、会長はじめ事務局にもお力添えをいただきました。



議員さんを囲んで

「土浦を創ろう・語ろう！」と題し市議会議員を囲み、お話をうかがいました。これは新しい企画という事で、部員間でも重すぎるとはとの懸念もありましたが、会長はじめ事務局にもお力添えをいただきました。

「土浦を創ろう・語ろう！」を企画・実施して 古市みどり



グループごとに発表をする皆さん

H28年11月1日(火)午後1時から、男女共同参画センター研修室において、第1期市議会議員の皆様を囲み、タイトルに沿ってワークショップを実施しました。総務部会にとって初めての企画でしたが、5人の議員、35人の参加者、男女共同参画課の職員、それぞれの協力をいただき実施することが出来ました。各議員さんを中心にグループ分けをし、それぞれのグループ内では、活発に意見交換が行われ、最後にグループごとの発表まで出来ました。

総務部会委員として、とてもいい経験になりました。出席していただいた議員の皆様は、井上圭一議員・勝田達也議員・今野貴子議員・下村壽郎議員・塚原圭二議員の5名で、島岡宏明議員は研修のため欠席でした。

学ぼうシリーズVI



「人と水」

第17回世界湖沼会議に向けて
H29年2月23日(木)

S59年から始まった世界湖沼会議が、今回は茨城県で開催されることが決まりました。それを受けて、人と湖沼の共生について学びました。

講演1



参加を呼びかける眞山淑枝氏

身近な環境問題

暮らしの会 眞山淑枝氏

世界72億になる人口。利用できる淡水は恐ろしい程少ない数

値です。世界湖沼会議開催は、その貴重な淡水をどう守るかという事でもあります。霞ヶ浦は広くて浅い湖で、湖の周辺に森林が少なく、水質が悪化しやすいのです。

水質汚染原因の半分は私達の排水と言っても過言ではありません。それを排出している当の市民間には認識が薄いでは困ります。今日は、霞ヶ浦の水質を調べるといって実践を通して暮らしと水について考えてみましょう。

世界湖沼会議は研究者や専門家の会議といわれていますが、是非、市民も参加し、市民目線で美しい湖沼づくり活動を日本から世界へ発信していきたい。(要約)

講演2

第16回世界湖沼会議に

参加して

市環境保全課課長 水田和広氏

H28年11月17日インドネシア・バリ島で行われた会議に世界35ヶ国から総勢千名余りが参加した。

8つの分科会は、「気候変動と水の危機」「生物多様性と保全」「陸水学」等々、専門性が高く、土浦市の施策にどう生かすか課題が残った。(要約)

研修部会活動報告

部会長 吉田 照美

第1回研修会

H 28年10月7日、27名の参加で最新の施設・設備を誇る素晴らしいの一言に尽きる、新土浦消防庁舎を見学した。他県や他市町村からも見学の依頼があるという。そして建物、施設だけでなく、消防署員の常日頃の勉強と訓練の努力に心を動かされた。予め質問事項を提出していたが、質問は？となると矢継ぎ早に・・・。予定の時間をオーバーしていった。土浦市の救急車出動は年平均は7千回前後、1回の出動に約5〜6万円の経費が必要とのこと。緊急を要する以外の要請は、なるべく控えるよう心がけが大切と感じた。



新消防庁舎前にて

第2回研修会

H 29年1月14日41名の参加で研修しました。

I部は秋田での日本女性会議参加者3名による、基調報告、分科会などで受けた刺激や感動を熱く語っていた。

II部は土浦市行財政改革推進委員会に土女連から代表として出席している大川ちよのさんが、委員会の様子や提言された内容をわかりやすく報告しました。

新消防庁舎見学に参加して

峯村きみ子

研修会では、新消防庁舎の見学を実施しました。新庁舎は、災害時ライフラインが寸断されても、自立可能な施設として整備されており、新たに訓練塔が2棟設置され、あらゆる災害の救助を想定した訓練ができる施設になっていきます。また、災害時に備えてのビデオを視聴し、近年の異常気象に備えて日頃からの準備、知識を高める事の必要性を改めて感じました。防災に関する様々な情報が得られる「ハザードマップポータルサイト」等、私たちが災害から守つ

参加された方々から、有意義な研修会だったという感想が聞かれた。

てくれる情報源も沢山あります。上手に利用し役立てましょう。

また、身近な所では、普段何気なく耳にしている『夕焼け小焼け』も、私たちの強い味方です。各所に設置されている「防災行政無線」にも、日頃から耳を傾け、情報をキャッチし、災害時にはその指導に従いましょう。

知っていますか、今119番通報は「いばらき消防指令センター」で受付ています。通報時には必ず、市・町・番地を伝えましょう。「場所指定時間」の短縮に繋がります。

広報部会活動報告

部会長 神立 史子

広報部の編集会議は、年間12回ありました。

土女連行事の際は、手分けして内容把握、写真撮影など取材を行いました。

編集計画を立て原稿依頼、回収、読み合わせ、パソコン入力などで大変忙しい一年でした。

部員はもとより、事務局をはじめ、役員の皆様の、陰のお骨折りが感謝しつつ活動を終えることが出来ました。

講演3

土浦市による霞ヶ浦流域での水環境学習の取り組み

市環境保全課技師 永峯弘規氏

H 27年からの新たな取り組みとして小学生を対象に「桜川エコアドベンチャーツアー」を開催している。

桜川上流部から霞ヶ浦湖畔の水質調査、水生生物調査など、これから土浦を担う若い世代に、「生活と水とのつながり」を伝えていきたい。(要約)



浦で霞ヶ浦の水質調査をする皆さん

COD(有機物)の濃度を検査する



透視度調査

日本女性会議 2016 秋田

みつめてみとめてあなたと私 ～多様性（ダイバーシティ）とは～

平成28年10月28日（土）～29日（日）



日本女性会議に参加して
土浦商工会議所女性会

大島敏子

日本女性会議秋田大会参加の栄を戴き感謝いたします。10月28・29日、上野經由秋田新幹線往復は快適で、車窓に映る初発の紅葉、整然とした田畑、背景の連山は見事でした。会場は駅近くの県民会館を主に、全て徒歩圏内で便利でした。案内や歓迎行事も丁寧で、名立たる竿燈、民謡民舞、盆踊り、物産展、郷土料理と地酒は目とお腹の保養十分、再訪願望は十二分でした。基調講演は内閣府武川恵子氏「女性地位が先進国の中で日本は底辺」。記念講演は横手市出身の自ら会社を起した藤原美智子氏「個性表出が自信と魅力を作る」。第一分科会「人権」は東京大学名誉教授上野千鶴子氏「安定志向でなく資格で起業」と私達を激励されました。



秋田竿燈まつり

第8分科会

ともに生きる喜びをはぐくむ
高齢社会

更生保護女性会 坂寄まつ江



会場前で

第33回の秋田大会では「みつめてみとめてあなたと私」というテーマで行われ、私は第8分科会「高齢社会」のシンポジウムに参加しました。一人のシンポジストは高齢者にやさしい都市の推進に取り組み秋田県の自殺者数半減に貢献、別のシンポジストは「あきぎん長活き学校」を企画し各方面で活躍する長生きシニアの紹介に努めるなど、行政が直接行うのではなく地域の力で作り上げていく活動でした。我が町でもすぐにでも取り組めそうな活動だと感じました。そして何よりも驚いたことはこの会議に参加したことで私自身が大きく変わったこと、視点を換え、認めることで見え方考え方がこんなにも変わるのだと新たな発見でした。

記念講演

違いこそが個性を作る魅力
を作る 六好会 大島恵子

開会式で小学生による竿燈演技で歓迎を受け、会場は手拍子で盛り上がり感嘆の声。その後横手市出身メイクアップアーティスト、藤原美智子氏の記念講演。女優、モデルなどのヘアやメイクを手掛けて35年、美しい女性とは？に「生き生きとした人」と。生き生きしている人からは必ず周りを魅了するものが現れる。魅力は人それぞれ。違いをみつめて、みとめて、自分を慈しんでと。人は外見と内面が一致して整ってこそ輝いて見える。日頃おしゃやれに疎い私にも納得できるお話でした。

土女連は平成4年から日本女性会議に、平成8年からは広島平和祈念式典に会員を募集、派遣しています。平成29年度も派遣を予定していますので、会員の皆様、是非参加して下さい。平成29年度の日本女性会議は10月13(金)～15(日)に北海道苫小牧市で「日本女性会議 2017 とまこまい～北の大地で語ろうこれからの未来の一步を～」が開催される予定です。

その他の活動報告

広島平和記念式典に参加して

商工会議所女性部 高橋信子

今まで頭の中だけで理解していた原爆の非人道性や被爆者の平和を求める強い想いを心の中で受け止めることができたように思います。それは、広島市全体にとって、この日が1年で最も特別な日であり、原点であることが、式典や一連の行事を通して伝わってくるからです。

1分間の黙祷では犠牲者を悼む厳粛な雰囲気の中にも、核兵器廃絶の未来に向けた力強いメッセージが訴求されました。平和は不断の努力で築いていくものだと思います。夜の灯籠流しで見たライトアップされた原爆ドームは怒りと悲しみに満ちていました。

二度と惨禍を繰り返してはならないと強く思いました。



千羽鶴に平和の願いを込めて

献血推進協議会

食生活推進委員会

木野英子

私たちが不運にも事故や病気で手術が必要になった時、輸血は欠かせないものであり、それは多くの方々の善意による献血で成り立っています。

当協議会では「健康まつり」開会式典に、献血回数50の倍数に達した協力者の方を表彰しています。今年度も沢山の該当者がおられ感謝の念で一杯でした。しかしながら季節などによってはまだ不足がちな事もあり、今後尚一層協力者の増大に取り組みねばなりません。ショッピングセンターなどの街かど献血も実施しておりますが、各企業の事業所単位での協力が現在では大きな力になっています。

更には土浦一高、二高、三高、土浦日大高校の学校全体での取り組みは心強いものがあります。若い方々への献血への啓発活動は未来への明るい希望です。土女連では「キララまつり」で参加者への呼び掛けという形で協力しております。常に献血の重要性を心掛け、参加をよろしくお願い申し上げます。

公共施設等総合管理

計画策定委員会

うららフレンドハウス 栗栖恵子

昭和40年代の経済成長期に土浦市でも多数の公共施設、上下水道などが整備され私達もその恩恵を受けたが、年代をへて老朽化が進み、更新の時期を迎えていると・・・この委員会に出席して知らされた。

大変なことだ。財政は？人口は減少傾向、地震対策は、など大きな課題を抱える状況の中で、「公共施設等統合管理計画」を早急に策定する必要に私達はせまられていたのだ。

分厚い資料の説明を受けた。対象となる24件の施設の老朽度、市民の利用度などについて調査したもので大変な労力が伝わってきた。

説明後10人の委員(女性5人)は市職員と質疑応答を繰り返した。会はまだ意見や提案を出した。会は4回開催され「公共施設等統合管理計画」が策定された。

今後、民間の活用も利用し、「水・みどり・人がきらめく、安心のまち、活力のまち」を目指して順調に更新、統廃合などが進められるよう願っている。

第25回かすみがうららマラソン 兼国際盲人マラソン大会協力

H 28年 4月17日



☆初めてマラソンボランティア (バナナ配布)に参加して

Aさんはランナーに接して

あの突風と雨と日照りの中、走るのがどんなに大変だったかと思うが、顔をゆがめながらも「ありがとう」と言えるマナー。「また来るよ」という前向きさに感動。

Bさんは土女連の皆さんに接して

先輩の皆さんのひたむきさ。声の出る方はニコニコとランナーを励まし、他の方は両手をあげて歓迎する真面目さと熱意と優しいまなざし!

来年は、ランナーとバナナ配りと両方やりたいと思った。

終戦時の体験記

土浦市地域婦人団体連絡協議会
神立 史子（91才）



16歳当時の写真

私は、両親が韓国に住んでいたので、生まれも育ちも韓国です。17才で教員になりましたが、終戦になり帰国することになりました。青州に住んでいましたが、列車の本線のある太田（タイデン）に行き、約一か月間、時を待ちました。

十一月に帰国する列車の日時が決まり準備をしました。衣類は敷布に並べ入れ、紐で担ぎました。お金は、一人千円と言われていま

したが、それでは生活ができないので工夫して隠し持ちました。何日かかるか分からないので、母は、干し飯を炒めて粉にして携行食料にしました。それぞれが、バケツ、手つき鍋、ボール、ゴザ等を持ちました。

両親、弟、一才下の従姉妹と私が乗った汽車は、馬を運ぶ有蓋車で、動物臭で一杯です。そこへ、ギョウギョウ詰めに乗りました。満州から帰国した人は、女性は男姿になり、無蓋車に乗って風雨にさらされていました。

釜山に着くと、身体検査や持ち物検査をされ、国旗や美しい着物は没収されました。プラットホームや大きな物置などで三夜を過ごしました。汽車の車止めに死人がコモをかけられ、脇を通る人がぶつかる度に、片手が揺れてい

ました。しかし、誰も自分のことで必死でそれを怖がるひまもありませんでした。

その後、波止場や巡洋艦内で休みながらようやく博多につきました。無事茨城に着き、母の実家のある大志戸で一か月お世話になり、つくば市山口にある板張りの養蚕小屋に住む事になりました。

私は大家さんに言われて、風呂焚きの一切をしました。バケツ2個を天秤棒につるして沢水を汲み、本宅の台所を通り、10m先にある風呂小屋に運び、焚きます。壁には「追い焚きをしないこと」「湯は外へ流さないこと」と書いてありました。薪は、山で採って来た粗朶やもみ殻等で、火吹き竹を使い焚きました。

風呂を使用する人は、大家さんの六人と私宅の四人で、最後に入るのは、私でした。湯はどろどろで気持ちわるいのですが、寒いので我慢して入り、大急ぎで家に駆け戻りました。

風呂の掃除も私なので、こすつていたら大家さんが来て、底の方は水漏れがするのでこするなど言いました。風呂桶は、大きな鍋をさかさまにしてドラム缶を乗せ、下は古布を使って、水もれしないように詰めてあります。素直に「ハイ」と言いましたが、できるだけこすりました。

その頃の食事は、韓国から持ってきた唯一の手つき鍋を利用し、わずかな配給の品と野の草を使い、粥状にしたものです。

四か月後には小田に移りましたので、19才の苦労も終了しました。

前土浦市女性団体連絡協議会会長真山淑枝様におかれましては、土女連会長として長い間、重責を担っていただき、ありがとうございました。

平成28年度

土浦市女性団体連絡協議会事業報告

[自主事業]

- ・総会 5/29
- ・学ぼうシリーズVI 2/23
- ・役員会（含実行委員会） 11回

総務部会

- ・会議 4回
- ・市議会定例議会傍聴受付 8回
- ・第1期市議会議員さんを囲んで11/1

研修部会

- ・会議 3回
- ・新消防庁舎見学会 10/7
- ・研修「日本女性会議 2016 秋田」報告会及び審議会報告 1/14

広報部会

- ・編集会議（つどい編集） 12回

[共催事業]

- ・センターフェスティバル 9/17

[協力事業]

- ・第26回かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソン 4/17
- ・広島平和記念式典 8/5～8/7
- ・人権と平和のつどい（平和記念式典体験報告）9/25
- ・日本女性会議 2016 秋田 10/29～10/30

[編集後記]

今年度より「土女連広報部会」と名称を新たに「つどい」編集に臨みました。新しい編集メンバーも加わり、慣れない作業はお互い助け合いながらなんとか発行にたどり着くことが出来ました。ご寄稿いただいた皆様ありがとうございました。会の機関紙として、会員の交流や情報発信の一助となれば幸いです。

編集委員

神立史子 長谷川初江
稲見清美 田中治江
加茂美那子 今泉芳子